

野球で故郷に恩返しがしたい



プロ野球独立リーグ球団 宮崎サンシャインズ監督

もとむらしんご

本村 信吾 さん (62)

小林中学校、都城高校、熊本鉄道管理局を経て、プロ野球選手の道を歩む。中日ドラゴンズから広島東洋カープ、福岡ダイエーホークスに在籍。退団後は、指導者に転身。小林中野球部や小林ボーイズの監督などを務め、現在は、プロ野球独立リーグ球団「宮崎サンシャインズ」の監督として2期目を迎える。

「野球は、自分自身です。なくなったら、自分がなくなってしまう気がします」。そう笑顔で話すのは、プロ野球独立リーグ球団「宮崎サンシャインズ」で監督を務める本村信吾さんだ。

本村さんは、小学3年生で野球を始め、社会人野球を経て、プロ野球の世界へ進んだ。

「体が小さかったし、どれだけ頑張ってもプロにいけないとは思っていません。た」と当時を振り返る。

学生時代は、決して注目される選手ではなかった。プロ野球選手になることを強く意識していたわけでもない。それでも、社会人野球で持ち味の打撃力が評価され、気持ちに変化が生まれた。「プロ野球でプレーしたい」。強い思いを胸に練習を重ね、打撃力にさらに磨きをかけた。そして、ドラフトで指名を受け、夢の舞台に立った。

引退後は帰郷し、指導者に転身。小林ボーイズや小林中野球部の監督を務め、甲子園に出場する選手を育てあげるなど、指導者としても優れた手腕を発揮してきた。

「自分をプロ野球選手に育ててくれた故郷に野球で恩返ししたかった」。

現在は、宮崎サンシャインズの監督を務める傍ら、市内で子どもたちに向けた野球教室を開催するなど、故郷とのつながりを大切にしている。

「まずは、野球を楽しんで好きになることが大事」と野球に打ち込む子どもたちへメッセージを送る。

故郷への想いを胸に、今シーズンもチームの指揮を執る本村さん。そのもとで、グラウンドを躍動する選手たちのプレーを、ぜひ会場で感じてほしい。

きっと、多くの人に元気を届けてくれるはずだ。

2月3日から7日まで運動公園野球場でキャンプを行った宮崎サンシャインズ。同球場では、7月11日・12日の13時からリーグ戦が開催される

現役時代、打席で鋭いスイングを見せる本村さん。2度目の移籍先となる福岡ダイエーホークスでは、外野手として自己最多の38試合に出場した



小林

こばやしびと
Vol.134